春秋戦国の兵家たち
(変化と客観的な判断の強調)

4 月③のごあいさつ

山内公認会計士事務所
2022 年 4 月 21 日(木)

孫子をはじめ兵家は、第一に客観的な判断を強調する。

ロシアのウクライナ進攻は、**「孫子の兵法」**の中にある。
孫子の兵法第一の「始計」において、**「兵は国の大事にして、死生、存亡の道なり。」**と言う。安全のためには**国家の実力を養成**しなければならないということである。
弱いところは攻撃を受ける恐れがある。
英語でも**「Weakness provokes」**(弱さは戦争を誘発する)と、する。
ロシアの進攻は良くないが、それを煽る米国、NATO、ウクライナの対応も良くない。

「呉子」は、「孫子」と併称される「呉起」の言葉を集めた兵書である。
呉起は最初、「魏の文侯」に仕え、その治績は大いに上がったが、文侯の死後、魏を出て**楚の宰相**となった。
呉起は、「楚の悼王」の知遇にこたえ、東に越をうち、北は陳、蔡の二国を併呑し、更に趙、魏、韓を撃退し、西の強国秦をも攻撃し、連戦連勝した。
また、内政面では、封建制度から郡県制度へ移行してゆく時代に応じ、強力に楚の中央集権化と新しい統一を進めた。

「尉繚子」は人間本位の兵法書である。
秦の始皇帝に仕えた尉繚の説を集録したものである。
秦が天下を統一する 16 年前に、始皇帝に**諸国の対秦同盟を未然に防ぐ策**を説き、好遇を受けた。しかし、始皇帝の人品を見て去ろうとした。だが、引き留められて秦の軍事官に登用された。
彼は、戦争は悪であり、人間にとって好ましくないものであるという基本的な考え方に立つ。しかし、大義名分が誰の目にもあきらかな場合、つまり正義の戦争は、先制攻撃をかけても差支えないとする。

「六韜」は周の建国(紀元前 12 世紀)に功績のあった太公望の説いた兵法と言われている。
「韜」とは、深くしまいこむという意味で、転じて**「秘訣」**である。
「六韜」は、六つの秘訣であり、「文韜」「武韜」、「龍韜」「虎韜」、「豹韜」「犬韜」で構成される。
日本の**「虎の巻」**という言葉はこの中の**「虎韜」**から来ている。

参考：史記(孫子、呉起列伝、始皇本紀)、司馬遷史記(徳間書店)

春秋战国的兵家　2022.4.21　③

（强调客观性的判断）

第、兵家主张、客观性的判断。

"孙子"曰、"乱而取之，攻其无备"是合乎规律的做法。

"俄罗斯，进攻乌克兰"，写明在"孙子兵法"中。

孙子兵法"始计"说，"兵者，国之大事。乱而取之，攻其无备、出其不意"。

这是从2500年前以来的兵法真理。

"吴子兵法"是对孙子并称的"吴起"的言论进行总结的兵书。

"吴起"最初是担任"魏文侯"的宰相，很有大的功绩。

但，魏文公死后，离开魏国，他还楚国的宰相。

吴起为报答"楚悼王"的知遇，就向东攻打越国、向北并吞陈、蔡两国，击退。

"赵"、"魏"、"韩"，就等西方的强国"秦"也遭受了楚国的攻击。连战连胜。

另一方面，大力推进"郡县制度"，努力强化楚国的中央集权。

"尉缭子"是重视，"人本位"的兵法。

秦统一天下16年前，任在秦始皇处为官。

他对始皇说，要防卫诸国的反秦同盟，

受到秦始皇的厚待。

但是秦始皇的人品问题而想离开秦国。

但被挽留，出任秦国的军事官。

他认为战争是"恶"的，对于人类不好的思想。

而言有弊而无利。

但是，有大义名分的时候，可以先发制人。

"六韬"是对周建国的重臣、大公望的言论进行总结的兵书。

"韬"即"深藏不露"，就是说在"秘诀"。

"六韬"是六个秘诀，即"文韬"、"武韬"、"龙韬"、

"虎韬"、"豹韬"和"犬韬"。

日语中"老虎卷"一词即来源于"虎韬"。